

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100095		
法人名	有限会社フレンドリーあい和		
事業所名	グループホーム ビボあいわ		
所在地	那覇市おもろまち3丁目6番3号 愛和ビル4階		
自己評価作成日	平成27年8月26日	評価結果市町村受理日	平成27年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100095-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着とはいえ、近隣にマンションや大型商業施設・公共施設等が建ち並び、地域との関わりが希薄な現状です。利用者が安全で安心して暮らせるよう、地域との結びつき・関わりを常に意識し、おもろまち自治会を主とした地域活動に参加し、地域活動を通して地域住民にビボあいわの紹介やイベント等の案内を発信し、理解者・協力者を増やしていけるよう取り組んでいます。特に、誕生会・ホームパーティー・家族会・外出支援等に、利用者のご家族と一緒に過ごせる取り組みに力を入れています。常に寄り添うケアを心がけ、家庭的な雰囲気の中、本人のペースで穏やかに暮らせるよう、職員一同、日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はマンションや商業施設が建ち並ぶ場所にある。都心の特性もあり地域との関わりに苦慮しているが、自治会賛助会員として地域活動への参加協力、近隣住民への行事案内等取り組んでいる。同建物2階にはクリニックがあり、夜間でも医師の往診や相談ができ、医療連携が図られている。運営推進会議には利用者家族の参加が多く詳細な活動報告、ヒヤリハットや事業所の課題等を相談し助言を得ている。日課では特に食を大切に、事業所内で三食作られ利用者の健康状態や嗜好、調理法の工夫等が容易である。毎月定例会議では全利用者のケアカンファレンスを行い、現状に合った支援なのか話し合わせ、統一した支援を図っている。母体法人主催の勉強会や研修会も充実しており、職員の資質向上に努めている。

とともに

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成27年 11月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気なか、その人らしく安心して過ごせるよう、全職員で理念を唱和・共有し日々実践しています。利用者・ご家族・地域との結びつきを大切に、理解者・協力者を増やしていけるよう取り組んでいます。	毎月定例会議で理念の唱和を行い、地域密着型サービスの意義を確認し、具体的なケアの統一を図っている。理念は「入居者が喜んでいただけるような支援」と「地域とのつながり」を重視し、4つの方針を掲げて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	おもろまち自治会に賛助会員として関わり、会議や祭り等に参加しています。ホームパーティーや消防訓練は、地域の方々に呼びかけを行い、参加していただくよう取り組んでいます。	自治会賛助会員として、会議や祭り等へ関わり、子供会エイサーや踊りの地謡としても職員が協力している。事業所ホームパーティーや行事への参加を呼びかける等関係づくりに取り組んでいる。専門学校生の実習受け入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・自治会会議・イベント等に参加する機会に、認知症の方への理解と協力を呼びかけています。特に近隣のマンション・店舗には、消防訓練の参加・協力を呼びかけています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度開催し、取り組み状況の報告を行い、運営推進委員の皆様と話し合い、意見や助言をいただき、申し送りや職員会議で話し合い、サービス向上に活かしています。	会議は利用者、家族、市の担当者、地域代表者等が出席し2カ月に一回開催されている。活動報告、ヒヤリハット、利用者状況等報告し意見や助言を得てサービスに活かしている。議事内容等は家族便りで知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会には、保険者担当が確実に参加しています。電話・メール・窓口で相談や指導を受けています。那覇市グループホーム連絡会議にも参加していただき、意見交換を行い協力関係を築いています。	市の担当者とは、運営推進会議やグループホーム連絡協議会等で情報提供や意見交換を行っている。市のチャージャーがんじゅう課からは毎月「チャージャーがんじゅう便り」が届けられ、担当者とは電話やメールにて相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人内の勉強会や外部研修等に参加して理解を深め、常に身体拘束しない、玄関の施錠をしないケアに努めています。	身体拘束に関する勉強会や定例会議、カンファレンス等で具体的な事例を通し理解を深めている。利用者一人ひとりのその日の気分や状態を把握し、見守りの方法を徹底し不穏時の言葉かけ等も統一し支援している。	

沖縄県(グループホームビボあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修を通して理解を深め、その人らしさを尊重し、身体的・精神的にも虐待を見逃さないよう、言葉遣い・態度にも重々注意を払っています。職員間でもお互いに声がけを行い、注意を促しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人内の勉強会やグループホーム連絡会の会議や研修等に参加する機会に、交流を図り情報交換を行っています。また他事業所の見学を通じて良い点を参考に、サービス向上に活かしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点等について尋ね、理解・納得していただけるよう、細かな説明と確認を行っています。改定等については、家族会で説明を行い、疑問点等について確認し合い、理解・承諾をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見は日常会話で聞き取り、ご家族からは面会・面談・家族会・運営推進会議等で伺うようにしています。玄関入口には意見箱を設けています。申し送りや職員会議で話し合い改善に努め、面会・面談・家族会・運営推進会議で報告しています。	利用者や家族からの意見、要望は行事や家族会、毎月のお便り、面談、運営推進会議等で聞く機会がある。意見や要望として看取りへの取り組みやヒヤリハット等があり、ケースカンファレンスや会議等で話し合っている。その経過や現状については家族会やお便り、運営推進会議等でも報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は日々問題意識をもって業務に取り組み、意見や提案を出し合い、その都度もしくは職員会議で話し合い、実践し評価を行い定着化を図り、運営に反映させています。	定例会議や個人面談で意見を聞くようにしている。職員意見で休憩時間を業務改善にて確保しているが、さらなる改善を検討している。管理者は職員のストレスや健康状態を把握しながら職員の環境改善に向け取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の仕事への取り組みや面談を通して把握し、代表者へ報告しています。管理者は代表者から面談を受けています。代表者は仕事に誇りとやりがいをもって働けるよう、職場環境・条件整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人全体での勉強会・研修、個々のスキルに合った外部研修に参加しています。面談時には本人の希望も確認し、部署異動・昇格も行っています。		

沖縄県(グループホームビボあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体法人内の勉強会やグループホーム連絡会の会議や研修等に参加する機会に、交流を図り情報交換を行っています。また他事業所の見学を通じて良い点を参考に、サービス向上に活かしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前に本人の見学をすすめ、本人(ご家族代弁)の要望をお伺いしています。はやく生活に慣れていただけるよう環境や言葉かけ等に配慮し状態観察を行い、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス前に困っていることや不安なこと確認しています。ご家族と面談を出来るだけ多く行い、日々の状況報告を行っています。電話やメールでも連絡をとり合い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、利用者・ご家族からニーズに合った福祉用具の相談や病院受診の対応等、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体は利用者であることを常に意識し、家事や日常生活動作は、利用者と職員が共同で行うよう心がけています。本人の残存機能を活かし、役割を担っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族の関係を大切に、面会機会を増やしていただけるよう声をかけ、面会の際は日頃の様子をお伝えし、関係づくりに努めています。誕生会・家族会・ホームパーティー・外出支援等、ご家族へ参加呼びかけを行っています。		

沖縄県(グループホームビボあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週教会へ行かれる方、毎週娘宅へ行かれる方、時々散歩や食事に行かれる方、馴染みの美容師さんが来てパーマをあてられる方等、関係が途切れないよう支援を行っています。	馴染みの人や場の関係性はアセスメントや本人、家族からの情報で把握し、家族との関係も大切にしながら、教会、美容室等、家族の協力で継続支援している。また、知人が利用者の家族と一緒に訪ねてくることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で声をかけ合えるような席の配置、コーヒー・おやつタイムにテーブルを囲み会話を交わしたり、合唱やラジオ体操を大勢で行う等の交流する場づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されて後の生活を把握するよう心がけています。困ったことがあれば相談に応じますと、ご家族へ声をおかけしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コーヒー好きな方はご自身でコーヒーを入れて、歌うのが好きな方には選曲をしていただき、踊りが好きな方にはビデオ見ながら踊っていただき、点つなぎ・塗り絵が好きな方には集中できる環境を整える等、ケアプランに掲げ支援に努めています。	利用者や家族から、これまでの暮らし方や好きなこと、習慣等アセスメントし、プランに反映させている。また、毎月のケアチェック表や個人生活記録で本人の言葉や職員の気付き、家族の言ったことを時間や日課に沿って記録し、意向や思いの把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当時のアセスメントや受付表・介護記録の確認、日常生活での会話と行動観察・職員間の情報共有で把握を行っています。不明な点はご家族に確認して把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身の状態を介護記録や日誌に記入し、全職員が確認し把握するようにしています。重要事項は、申し送り時に口頭でも確認し合い情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が日頃困っていることや要望等を尋ねたり、ご家族から面会・面談時にニーズをお伺いして、毎月のカンファレンスで検討・確認を行い、現状に即した介護計画を作成しています。	介護職員は毎月の定例会議の中でケアカンファレンスを行い、サービス担当者会議には利用者、家族が参加し、それぞれの意見が反映された介護計画が作成されている。ケアプランの見直しは3カ月毎で、家族との面談もある。	

沖縄県(グループホームビボあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別記録に記入し、職員は記録確認を行って情報を共有しています。重要事項は申し送り・会議でも確認を行い、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・ご家族のその時々生まれるニーズに対して、その都度柔軟に対応しています。専門医科受診や往診、訪問マッサージや訪問美容室、個別の買物の支援も行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	都市型資源を活用しての外出支援、買物や散歩、併設のデイサービスのイベントに参加する等、心身に刺激を与えることが出来るように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・ご家族の意向を大切に納得が得られたかかかりつけ医となっています。夜間往診もできる体制が整い、連携が図られています。歯科専門医の往診もしていただき口腔ケア指導も行っています。	利用者は同じ建物の協力医療機関を受診している。他科受診の初回時には職員も同行して情報提供を行なっている。協力医とは医療連携連絡票で連携、往診も出来る体制ができています。訪問看護、訪問歯科医、薬局とも相談できる関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週1回定期的に来ていただき、健康チェックと状態把握に努め、体調不良やケガ・急変時に連携がとれる体制になっています。看護師と医師との連携も密に図られ、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、病院関係者を訪問し認知症の症状・ADL等の生活情報提供を行い、早期に退院できるよう相談に努めます。ここ1年該当ありません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対策・終末期対応指針案を作成しています。法人内外の勉強会にも参加し理解を深めています。利用者の状態によりご家族・主治医・ケアマネ・管理者等で話し合い、個別対応を行っています。これから取り組んでいく重要課題です。	事業所としての重度化や終末期の指針を明文化し職員とも話し合い共有している。利用者の状況に応じて主治医、家族と一緒に考え相談し、医療的ケアが必要としている場合は3か月毎に話し合いを行っている。	

沖縄県(グループホームびぼあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・救急救命法の勉強会・研修に参加し、実践力を身につけるよう努めています。急変時・事故発生時に備えてマニュアルを全職員で確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者が避難できる体制づくりが重要課題です。近隣のマンション・店舗に参加・協力を呼びかけ消防訓練を年2回行っています。他に緊急時の連絡、火災発生警報機・通報設備の操作方法を確認しています。	今年度は災害避難訓練は実施されていない。(10月24日訓練予定)マニュアルは整備され、災害に備えた備蓄3日分、備品等は準備している。	省令、運営規定等にも年2回の災害避難訓練が謳われています。いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるように、年2回の訓練実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し言葉遣いや態度には特に注意を払っています。入浴・排泄も一人ひとりのペースに合わせ、極力同姓で介助を行うよう心がけています。居室の出入りにも注意してプライバシーの確保に努めています。	開所当初からの利用者が半数で、個性を大事にし、残存機能が発揮できるような声かけ、自己決定しやすい声かけに努め、一人ひとりのペースに合わせた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩・午睡・入浴等、一人ひとりのペースで自己決定ができるよう、希望を確認しながら柔軟に対応してします。利用者が気がねせず意思決定できるよう、日頃から関係づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・排泄・就寝等、一人ひとりのこだわりやペースを大切に声かけを行いながら、本人の希望に沿って柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思疎通が図れる方は、衣類を本人に選んでいただき、選べない方でも見ていただき確認をとるよう心がけています。起床・離床時には整容、男性は毎日髭剃りを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・お膳拭き等、できること得意なことは、利用者と職員と一緒にしています。食べたい料理を聴いたり、旬の食材を取り込みメニューを決めたりしています。職員も一緒に会話しながら昼食を摂っています	食事は3食事業所で作り、買い出しは職員が行っている。利用者は食材の下ごしらえ、盛り付け、下膳、片づけに参加している。利用者のこだわりも大切にしながら状況に合わせてテーブル席を工夫している。職員は介助や見守りしながら一緒に食事を摂っている。	

沖縄県(グループホームびぼあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・食事摂取量・水分摂取量に気を付け、個々に応じた形態で本人のペースで提供しています。母体法人の栄養管理士に、献立をチェックしていただき指導を受けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせて口腔ケアを行っています。義歯は夜間預かり洗浄保管しています。必要に応じて歯科受診・往診で治療を行い、口腔ケア指導を受け実践しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄、夜間はトイレ・ポータブル・パット交換と個別に対応しています。パットやリハビリパンツ等はコスト削減にも努めています。	一人ひとりに合った支援に取り組み、夜間帯ポータブル支援から睡眠を妨げないように、オムツ、パットに変えた方もいる。オムツやパットについて業者に相談したり、月1回の検討会議を行っている。下着を自分で洗っている時は声かけせず後で対応支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を記録し把握しています。予防としては水分・乳製品摂取・体操・マッサージ等を行っています。必要に応じてセンナ茶・内服薬で調整、状況に応じ主治医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望と活動に合わせ、週3回の入浴を行っています。体調不良時には清拭もしくは後日入浴を行っています。拒否される方はタイミングをみて声かけの工夫や担当を変えたりして促しています。	入浴は週3回でシャワー浴である。一人で入浴する利用者もあり、出入口での声かけや様子を伺い安全確認している。好みの石鹸、シャンプーで、出来るところは本人が行い不十分なところを支援するなど羞恥心に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠していただけるよう適度にウォーキング・体操・家事等を促しています。夜間寝付けない方は、本人が好きな曲や落ち着いた曲を流したり、話し相手になったり状況みながら対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の効能が確認できる説明書をカルテに綴り、お薬手帳でも管理して、職員がいつでも確認できるようにしています。薬の変更がある際は、介護日誌に記入し申し送り確認しています。		

沖縄県(グループホームビボあいわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビでニュースやスポーツ観戦、ビデオで歌と踊りやお芝居の鑑賞、唱歌・童謡・民謡を歌ったり、洗濯物干し・たたみ、野菜の皮むき等、一人ひとりの趣味や得意なことを促し、笑顔で楽しみながら、あるいは黙々と行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	教会・娘宅・病院等に、ご家族と定期的にあるいは時々出かけられる方がいます。出かける機会が少ない方は、テラスに出て気分転換を図れるよう支援しています。	利用者の状態も低下し、また、事業所が4階で戸外に出かけることは少なくなっているが家族と外食、公園散歩、教会、美容室、自宅訪問と家族の協力で外出している。日常生活ではテラスに出て外気浴、地域の祭りの花火見学等空気や季節感を感じられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は本人所持を行っています。利用者と職員と一緒に買物に出かける際は、できる範囲で現金を渡し支払いを行っていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話してほしいと言われるときは、時間帯を考慮して、職員が電話をかけ先方に確認してから、本人に変わりお話ししていただいています。贈り物が届くときも電話をかけ、同様に対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快を感じさせないように環境整備に努め、装飾品や旬の食材で季節感を演出しています。調理の音や香り、洗濯物干しやたたみ、ソファでうたた寝したり、テレビやCDラジカセの音、家庭的な雰囲気や心地よい空間となっています。	事業所出入口のエレベータ前に、椅子が置かれたり、トイレは間違えないよう表示している。調理場は居間兼食堂と近く調理の音や匂いを感じる事ができる。家族の面会時に共用空間でも過ごせるよう環境を整えている。利用者はこだわりの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでうたた寝したり、テレビでスポーツ観戦やビデオ鑑賞したり、食卓テーブルを囲みコーヒー・おやつタイムを新聞読みながらゆったり過ごされたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビ等を持ち込み、利用者・ご家族と相談しながら配置にしています。本人もしくはご家族の写真や記念品等も飾り、落ち着いた雰囲気や心地よい空間になっています。	使い慣れた家具、ラジカセ、愛読書等が持ち込まれ、宗教関係の像や写真、時計、カレンダー、作品等が飾られている。衣類等は家族と相談して持ち帰ってもらうなど整理整頓に留意している。居室を在宅時と同じ配置にして居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には、本人やご家族の写真を目印に飾り、目線の高さにイラストでトイレ表示をしています。広く通路を確保し歩行器や車椅子を自操される方にも安全です。困ったときは、居室・トイレからコールボタンを押していただき対応しています。		